

陳舜臣さんを語る会通信

NO.13 Jul. 2020

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橘雄三方「陳舜臣さんを語る会」

Tel. 078-911-1671

編集 「陳舜臣さんを語る会通信」編集委員

発行日 2020年7月15日

家業に取り組みながら「できれば学問の周辺にいたい」と願った10年

日本の敗戦によって、陳舜臣さんは、日本国籍から中国（中華民国）籍になった。このことは、陳舜臣さんの人生設計に決定的な影響をあたえた。

「否応なく国籍を変更されたので、これまで自分に予定されていたコースが取りにくくなったのである。大阪外語は国立だから、そこの教授、助教授は国家公務員という一面がある。「任官」しなければならないのだ」（『道半ば』）。「私にはそれ以上に重大な問題があった。台湾からやって来た何既明氏とは、これまでなんども自分たちのアイデンティティについて語り合った。だが、私はほとんど台湾のことも中国のことも知らないのである。なによりもまず台湾に帰ってみることはないか」（日本経済新聞2004年6月連載「私の履歴書⑭」）。陳さんの戦後は、台湾帰国で始まります。

（編集委員 橘雄三）

《1. 終戦から乱歩賞受賞まで》

貿易会社勤めの10年	
年	できごと
1945	8月、終戦
1946	3月初旬、台湾・基隆上陸
	この間、台北県立新莊初級中学で英語を教える。1947年、二・二八事件起きる
1949	10月、日本に帰る
1950	3月、結婚。家業（貿易商泰安公司）に本格的に取り組むようになる 父親の会社（泰安公司）での仕事はもっぱら商用文を漢文で書くことで、いわゆる営業ではなかった
1952	5月、長男立人生まれる
1956	尺牘がタイプライターになり、手書き仕様が半分量になったため、自分の次の仕事を考えなければならなくなる
1957	1月、長女由果生まれる。この頃からぼちぼち小説を書きはじめる
1958	将来への不安つのる日々
1959	娘を寝かしつける際、推理小説を読んで聞かせ、「この程度のものならボクにも書けるな」と夫人に言うと、「なら書いてみなさい」と言われ、作家になる決意を固める
1960	10月、「風のなか」が第十一回文学界新人賞の最終審査候補作になる
1961	8月、「枯草の根」で第七回江戸川乱歩賞受賞。予想以上に多くの原稿依頼が舞い込むようになる

↑「年」の欄、灰色地は家業に従事した10年

《2. 「できれば学問の周辺にいたい」と願って》

1950年、結婚し、家業に取り組むようになります。

家業であったが、私ははじめからこれは自分にはむかない仕事だと思っていた。（中略）正直いって、あまり熱心に働いたとはいえない。デスクワークがおもであり、なるべく早く仕事をすませて家に帰った。（前掲「私の履歴書⑭」）

サラリーマンというべきか、ビジネスマンというべきか、台湾から戻った後の十年は、本来自分がめざした道ではなかった。（中略）「せめてペン・マンとしての道を歩みたい」（『道半ば』P. 311）

家業に従事した十年は、私にとっては作家になる準備期間だったと言える。私は子供のころから、よくぼんやりしているとまわりの人から言われた。じつはそんなとき、私は「物語」を考えていたのである。子供のときはもちろん他愛のない「物語」を、作家をめざしているときは、多くの人を納得させる「物語」をかんがえている。（『道半ば』P. 319）

最後は肯定的に捉えてはいますが、本気で家業に打ち込めない、不本意・将来への不安を抱えての10年であったことがうかがえます。



“貿易会社「泰安公司」の経営に多忙であった父・通とそれをたすけた母・蘇嬌” 『道半ば』より

業界誌に見える家業「泰安公司」と陳舜臣さん

陳舜臣さんの父・陳通氏の興した貿易商についての記述は、『道半ば』や『三色の家』に見えますが、これを業界誌の記述から裏付けたいと思います。使用・引用する書籍は、『神戸海栄会会報』（創刊号は昭和29年発行）、及び『苦節十年』（昭和42年 海親会発行）です。前者は個人蔵、後者は神戸華僑歴史博物館蔵です。なお、神戸華僑歴史博物館運営委員二宮一郎氏から情報をいただきました。感謝！（編集委員 橘雄三）

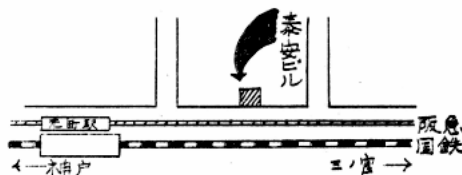
《1. 『苦節十年』（昭和42年発行）掲載の海親会々員営業案内より》

父・陳通氏が経営する「泰安公司」について、一番まとまった記述は、『苦節十年』の次の記事です。



泰安公司

名称	泰安公司 TAIAN TRADING CO.
住所	神戸市生田区北長狭通三丁目九一八 泰安ビル三、四階
電話	神戸（33）一一八四、四四九五番
電略	THE TAIAN コウベ・タイアン
組織	個人
資本金	一五〇万円
決算期日	
年間取扱高	約二億円
役員氏名	
代表者	陳通（明治二九年四月一五日生）
創立年月日	昭和八年七月
従業員数	五名



《3. いくつかの説明・補足》

ここで話をするのは、父・陳通（一八九六―一九七一）氏が、昭和八年、海岸通五丁目に泰安公司を創業した、いわゆる「三色の家」の時代から、少し後のことです。

（1）『苦節十年』の発行所、「海親会」とは、神戸海産物貿易同業組合の事業の一環として発足した組織で、組合員の取扱い産物の主要品目は昆布、干スルメなどでした。この両品目については、前掲「私の履歴書②」にも記述があります。

（2）泰安公司の所在地ですが、このページ左端の名簿の「三丁目四十八」が古く、上段枠内、「三丁目九一八」にかわり、更に現在の「三丁目三一」に表示が変更されています。

（3）このページ左端にあげた会員名簿について説明します。名簿の一番下は自宅住所と電話番号です。

陳舜臣さんの弟、仰臣氏は家業を継いだ人で、この時期の住所は布引町二丁目三ノ一九で、陳家の実家に住んでいたことがわかります。

また、この名簿は昭和32年11月現在のものですから、舜臣さんは、既に、通称「イタリア館」裏の、今も鉄の門扉が残っている家、左の名簿の「北野町一丁目三一」に住んでいましたので、毎日、家を出、不動産を下り、山本通を経て、生田神社の横を過ぎ、南西に道を取り、泰安公司へ通っていたと思われます。乱歩賞受賞の通知があった日、カバンのとっ手ははずれたのは、このコース、帰り道のことでした。

《2. 『神戸海栄会会報 第四号』の会員名簿から》

この名簿は、「昭和32年11月現在」と但し書きが付いています。舜臣さんと弟、仰臣さんの名前が載っている箇所を左にあげます。

高橋敏夫	生田区北長狭通三丁目四十八
蔡東濤	泰安公司
陳仰臣	同
陳舜臣	同

電話神戸③ 一一八四
四四九五

勤務先に同じ

生田区山本通三丁目七七ノ一〇

青合区布引町二丁目三ノ一九

生田区北野町二丁目三一

電話神戸② 〇六七〇
電話神戸② 〇七九〇



陳舜臣さんの職場「泰安公司」と最後の住居「オーキッドコート」

今年の梅雨はよく降る。そんなある日、久しぶりに青空が見え、チャンスとカメラを持って家を出た。しかし、すぐに、どんよりと曇り、やがて、ぼつぼつしはじめる。それでもなんとか、撮影予定場所、元町の泰安公司と住吉川、久原橋付近は傘なしで撮影を終えることができた。以下、報告します。画像はすべて、編集委員撮影。曇天で、写りがどれも暗く、残念！
(編集委員 橘雄三)

泰安公司 今昔

陳舜臣さんの父・陳通氏は、昭和8年、泰安公司を創業しますが、初期の社屋、海岸通五丁目の「三色の家」は空襲で焼けてしまいます。その後、北長狭通3丁目に平屋を建て、そこに会社をうつします。(この正確な年月については、昭和30年10月までは遡れましたが、それ以前は調査中です)。ここで、陳舜臣さんは弟の仰臣氏と家業に取り組みます。江戸川乱歩賞受賞もこの時期です。(本号2頁を見て下さい)

受賞後、舜臣さんは作家へと道を変え、弟の仰臣氏が家業を継ぎます。家業を継いだ仰臣氏は、この地にビルを建設します。いまの4階建ての泰安ビルです。泰安公司の現社長は、仰臣氏のご長男です。

現在、ビルの1階には衣料と雑貨を扱うテナントが入っています。ビルの位置は、JR元町駅を北へ出、鯉川筋を東へ渡って、JR沿い、5軒目です。写真はJR高架下から北を向いて撮ったものです。



↑ 正面、木立の右が泰安ビル

陳舜臣さん、最後の住居と散歩道

いま私は二十九年住みなれた^{おぼのやま}伯母野山の家から、住吉川のほとりに居を移した。久原房之助の旧邸宅跡地に建てられたマンションである。住吉川にかかる久原橋を渡るのが私の散歩のスタートなのだ。橋を渡って一、二分ほど歩いたところ、甲南小学校の正門に曲がる角に、谷崎潤一郎の筆になる「細雪」の石碑がある。(『道半ば』p. 56)



写真は陳さんの最後の住居となったマンション「オーキッドコート」と手前、住吉川にかかる「くはらばし」。この橋から散歩はスタートしました。

次は陳さん記述の「細雪」碑です。細雪の碑は他にもあって、この碑はあまり知られていないようで



す。碑の裏に由来が刻まれているのですが、後ろの壁との隙間が狭く、かろうじて差し入れたカメラで、当てずっぽうにシャッターを押すと、「谷崎の書」と「小磯良平作の雪模様」の文字が読みとれました。



甲南小学校付近。陳さんは、こんな道を散歩したのでしょうか。